

# 悪魔祓いばらい

向本折白山神社では毎年秋祭りの日の晩（九月十六日頃）に、社殿の前で大太鼓と大獅子の神楽舞の後、約二間四方の四隅に青竹を立てて注連縄しめなわを張り巡らし、その中央に筵むしろを敷いて舞台をつくり、若連中によって悪魔祓いの舞を行う。

これはその昔、この向本折町が隣接する今江潟いはんの氾濫はんらんによる水害によって疫病えきびが蔓延まんえんし、妊婦をはじめ大勢の人たちが亡くなった。あるとき今江潟から美女が現れ「われは白山神なり、悪魔を鎮めん」と言って祓い舞をしたところ、その年は疫病が流行らなかつたと伝える。そのときの舞が現在行われている悪魔祓いである。

境内の参道に焚かれた篝火かがりびのあかりに照らされて、提灯ちようちんを手にした四

人が先導し、まずは夜叉面しゃめんの男面をつけた舞人が登場し、青竹の弓矢を手に地面を足で踏み鳴らす反閑へんげんの仕草にて地面を祓う（写真1）。そして七五三の踊りをしながら四隅の空を射る所作をして一巡し、最後にその年の鬼門きもんの方位に向かって矢を放つ。

次いでその年安産した女性が身に付けたものを借り集めて腹部につめ、妊婦に扮したおかめ面を付けた女面の舞人が男面の舞人に抱



1 悪魔祓いの神事。男面の反閑の所作



2 女面と男面の登場場面

えられるようにして現れ（写真2）、男面の舞人は再度反閨の力足を繰り返して踏み、女面の舞人をいたわりながら回り、次いで女面も同じく中央から四

隅に矢を射る仕草を行った後、鬼門の方位に矢を放ち弓を折る（写真3）。この間まったく無言であり、また使用した弓矢を妊娠の女性たちが安産の



3 女面が弓矢を放つ

お守りとして持ち帰る。現在、この儀礼は悪魔退散のほかにも安産祈願と五穀ごこく豊穰ほうじょうを願う神事として市指定無形民俗文化財に登録されている。（小林忠雄）